

東由利村報

No. 160

1970・12・1

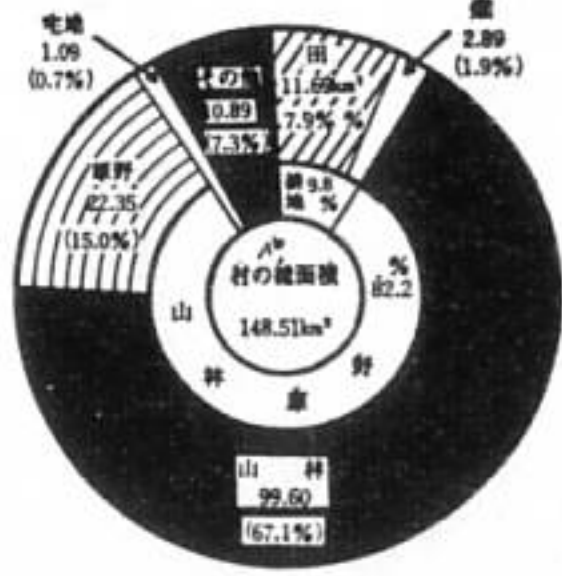
発行 秋田県東由利村役場 印刷 K K 本間印刷所
毎月1日発行(1部8円)昭和42年7月21日第三種郵便物認可

世帯と人口

世帯数 1,587世帯
人口 7,316人
男 3,614人
女 3,702人
前月に比し世帯は1の減
人口は13の減

財政

一般会計 339,851千円
特別会計 88,684千円
国保 86,106千円
内訳 黒診 792千円
簡水 1,400千円
玉財 386千円



農協合併に新局面

推進協を構成、話し合いへ

東由利・玉米両農協役員らが会合して、農協合併問題を中心とし、農政の動向を話し合う、第三回目的の農政懇談会は、十一月二十一日、新由利が展開するかにという期待で開かれた。そして盛んな意見交換のすえ、村長・協議会長・農協委員長・両農協全役員で構成する、農協合併推進協議会を設置、両農協合併による事務局長案をもとに、早期合併をめざして、話し合いを進めることとなり、合併推進協の初会合は、十一月二十九日午後から役場で開くことを申し合わせた。

村長、協議会長を混えた東問題では、すべきだとの意見、第二回目的の会合は、九月五日、利・玉米両農協役員による、どうせやるなら第一本という、大型合併論の両者にわかれた、合併の話し合いは、農協合併が、結論として「農協合併」単一の話題で再度会合を、と、いうことで次回にも越して、ある。

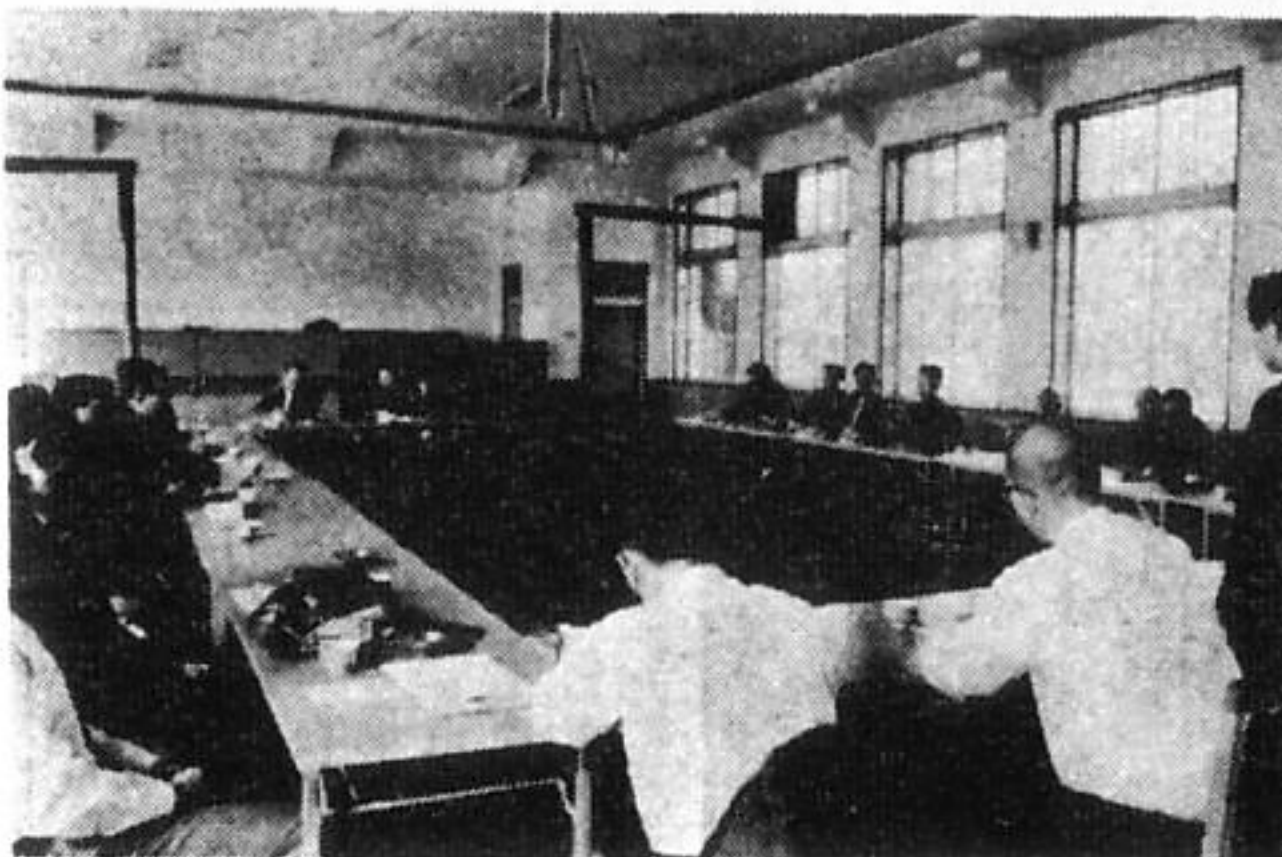
事が質問に答えて、一村に二つの農協は、その理由いかんを問わず時代錯誤であり、すでに議論の段階でなく、合併あるのみという発言をし、これがまた、われのような拍手を浴びたものである。知事は、合併後、関係部署にこう指示したという。「東由利では農協合併に組合員が強い希望をもっている。あえては事務手続をすすめていく。早く、すぐ指導するように」。

そこで、農政部金融団体の進捗課長、同課農協指導係長らは、本村に対し、この問題について両農協役員と懇談する機会を与えてくれるよう要請していた。

それが十一月二十一日の農政懇談会となり、合併推進協

稲田の保存をいかに

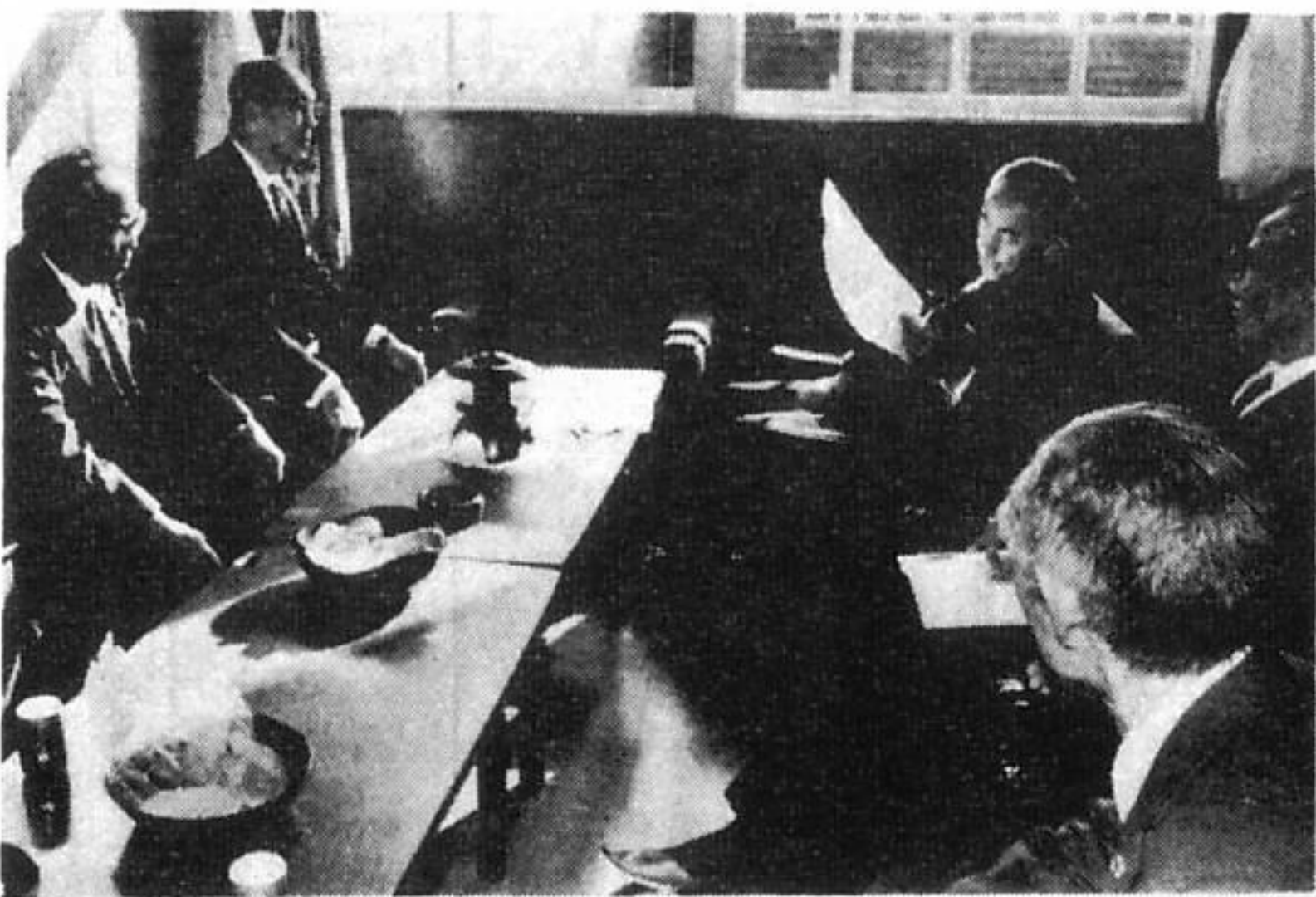
農業の現況と農協



- 十一月二十一日 東由利・玉米農協
- 8日・46年度小学校就学予定児童の身体検査、住吉小、宿小
 - 9日・同、玉米小、法内小
 - 10日・同、袖山小
 - 11日・同、蔵小
 - 15日・同、蔵小
 - 9日・民生委員協議会、社会福祉協議会9時から役場
 - 10日・小学校問題研究会役場
 - 14日・家庭の日地区会議10時蔵新田児童館
 - 14日・人権相談9時から3時まで役場
 - 15日・食品と添加物の年末年始一せり取締り運動
 - 17日・年賀郵便特別取扱い受付28日まで
 - 中旬・農協合併推進協議会役場

「貯蓄の芽育てて築こう豊かな郷土」いま県民総貯蓄特別運動が展開されています。稲作農業の転換期に、大豊作をむだにしないよう「みえ、むり、むだ追放」に一人一人が心がけて、長期的な生活設計と合理的な消費生活を。

貯蓄で生活安定を



▲竣工式のと、知事に対し十場沢林道、山村開発センターの陳情をする村長・議長・議員。
▲はなむけに小畑知事が自書、題して「秀峰我れに在り」

老万小学校に併設して十年、旧下郷村役場庁舎を内部改造して過した十一年の間、十八期三四〇余人(新校舎での卒業生をふくむと十九期三八〇人)の若者たちが、学び舎として、あまりにも名ばかりな不自由さに耐えて果立って行った。しかし、本荘高校下郷分校は、二十二年の歴史の上に大きく開花。台山原頭、夢にまで見たという、すばらしい独立校舎が完成した。

県立本荘高等学校下郷分校は、はじめ県議会、県教育委員会、同窓会、在校生などの校舎、喜びの落成式は小春日の十一月十七日、新装なった同校体育館を会場に県が主催、本村が協賛して行なわれた。この式には、小畑県知事を

結実 苦節二十二年の夢 全容完成した 本荘高校下郷分校

展望をして農民の自信回復を呼びかけた。

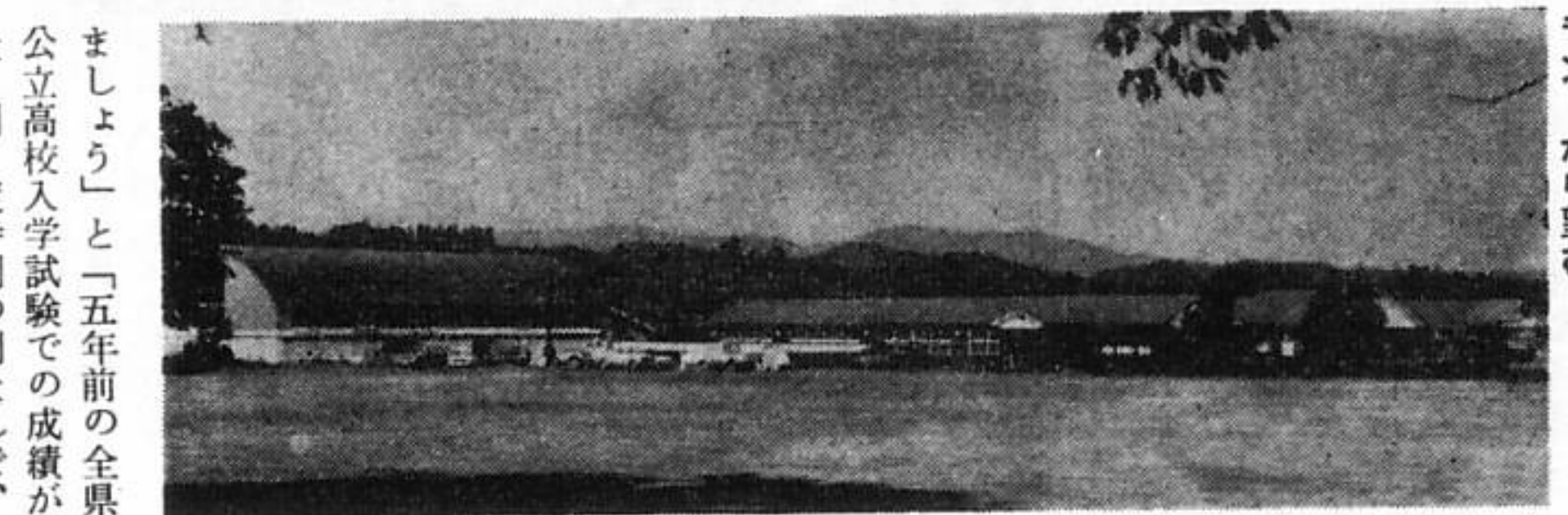
また学校長あいさつで石川本荘高校長は「きょうの校舎落成の喜びは、小松分校主任を中心とした二十二年間にわたる執念のたまもの」と語り、在校生に対しては「人々の善意を忘れないで、郷土のためにがんばってほしい」と教示した。

小松分校主任は「昭和二十三年に学校を開校してからの苦しい場で、今日あることを夢見てきた」と喜びをかくしきれず「多くの人たちのあたたかい思いやり、善意などで成った新校舎に、心」を入れることが今後の使命である」と感謝と決意を述べた。

伊藤県教育長は「当分校の知られざる優秀さを打ち明けた



完備した高校分校完成の喜びを述べる小松村長。同校体育館にて



分校独立校舎の全景を台山ランドから望む

が農家の本音であろう。

▽休耕田に転作を奨励した意味「ここ四五年、生産調整は避けられないが、やがては生産量を増やさねばならない時代が来る。そのときまでどうやって稲田を保存しておくか、という手段のために荒さないで大豆でも、ということである。

▽いまの農業の弱さ①まず経営規模が小さい。②単作物だけでなく、需要農産物のバランスを欠いている。③面積に比べ機械設備が過大である。

▽農協の役割「本県の農協すべてに通じるが、指導力がない。また農協の使命は、生産物の販売事業と、共同利用施設を提供することである。

年末を明るくする交通安全運動

「交通事故のない明るい年末にしよう」この統一スローガンを掲げ、全県いっせいに年末を明るくする交通安全運動が、十二月二十一日から二十七日まで繰り広げられる。

このたびの重点目標は、歩行者と自転車の被害防止であり、そのため歩行者は①横断歩道を左右を確認し、手をあげてさっさと渡る②急な道からとび出さない。③歩道右側を歩く。④車のスピードに対する感覚と判断を身につける。

自転車は①左側一列進行をまもる。②右、左折するときには合図をし、前後の安全を確認する。③ブレーキ、ライト、後部反射器の整備を完全に。④酒をのんだからの自転車はやめる。

運転者は①横断歩道の手前での追越し、追抜きはやめる②追突防止のため充分な車間距離をとる。③むりな追い越しは絶対やめる。

また県では、交通事故の被害にあい、手続きがわからなく困っている人のために、交通事故相談所を設けている。役場の交通担当係に問い合せのほどを。

2日・栄養改善講習会、役場

3日・生活扶助費支給、役場

4日・青少年健全育成協議会の幹事会、役場で1時から

8日・46年度小学校就学予定児童の身体検査、住吉小、宿小

9日・同、玉米小、法内小

10日・同、袖山小

11日・同、蔵小

15日・同、蔵小

9日・民生委員協議会、社会福祉協議会9時から役場

10日・小学校問題研究会役場

14日・家庭の日地区会議10時蔵新田児童館

14日・人権相談9時から3時まで役場

15日・食品と添加物の年末年始一せり取締り運動

17日・年賀郵便特別取扱い受付28日まで

中旬・農協合併推進協議会役場

午前八時三〇分から午後四時三〇分までとなります。どうぞご協力のほどを。

火災に注意

寒い季節は火災の季節でもあります。働き手の出かせぎで思わぬ不幸をまねくこともある